



# ほ ろ

## 言語の消滅

最近、“言語が無くなる”という話を聞きました。現在世界に存在する数多くの言語のうち、話者が減少し、将来的に誰も話さなくなる可能性がある言語が非常に多く存在するということのようです。

世界には7,000以上の言語があると言われていますが、そのうち約40%が消滅の危機にあるとされています。多くの消滅危機言語は、話者数が1,000人未満とごく少数になってしまっています。ユネesco(国際連合教育科学文化機関)によると、毎年数十の言語が消滅しているとも言われ、今世紀中に世界の言語の半数以上が失われる可能性があるという予測もあるそうです。日本国内でも、アイヌ語や沖縄の島々で話されてきた琉球諸語(奄美語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語など)が消滅の危機にあるとされています。

言語が消滅する背景には、社会や経済の大きな変化が関わっていると言われています。そして言語が消滅する主な理由として「若い世代への継承の途絶」、「社会的な圧力」、「都市化・グローバル化」の3つがあります。

経済的な成功や進学・就職のために、より話者人口の多い「主要言語」が使われる都市部へ若者が流出し、残された話者が高齢化していき家庭やコミュニティで言語が使われなくなり、若い世代が習得しなくなります。

国や地域の主要言語が公教育やメディアで使われるようになり、少数言語が「役に立たない」「遅れている」と見なされるなど、社会的な地位が低下することもあります。

そして、グローバル化の進行や主要都市への人口集中が進むことで経済力や情報が集中している地域の主要言語が優勢になり、コミュニティの崩壊(災害なども含む)によって言語を維持・継承する環境が失われることもあります。



言語はその民族の歴史観、哲学、伝統、アイデンティティと深く結びついています。言語が失われることは、その文化的な多様性の一部が失われることになります。「多くの言語が無くなる」ということは、単に言葉がなくなるだけでなく、その言語とともに育まれてきた文化や知識が失われることを意味します。

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】こうやって頭のなかを言語化する。

荒木 俊哉 著 PHP研究所

ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年11月1日 Vol. 277

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

## 議員定数削減

日本で初の女性総理大臣が誕生しました。連立政権を組むにあたり「議員定数の削減」が政策協定の条件に加えられました。

日本の選挙制度、特に小選挙区制は“世襲議員”が生まれやすく優位に立ちやすい構造を生み出しています。世襲議員が多い背景には「個人戦」としての日本の選挙の性質と、それに伴う「地盤・看板・カバン」の継承が深く関係していると言われます。

日本の選挙は、欧米の多くの国とは異なり、政党の政策よりも候補者個人の影響力や地域への貢献が重視される「個人戦」の側面が強いとされています。この「個人戦」の性格こそが、親の個人的な資産(地盤・看板・カバン)をそのまま後継者が継承できる構造を強化しています。議員定数の削減は、財政効率化や「身を切る改革」として求められる一方で、「一票の格差」は正のために地方の定数を減らすと、地方の意見が国政に反映されにくくなるというジレンマが生じます。この問題を解決するためには、単に定数を減らすだけでなく選挙制度を工夫し、地方の声を拾い上げるための仕組みを強化することが重要になってきます。

イギリスの政治における世襲議員の数が減少した背景には、日本の政治とは異なる要因があります。政党の公募プロセスがより厳格で透明性が高く、候補者を選定する際に能力や政策を重視する傾向があります。選挙制度の改革にはいろんなことを議論していくかなければなりませんが、改革しなければならない時期に来ていると思います。



### 【座右の銘にしたい名言】



リーダーの資質は、自らの中にある基準に現れる。

レイ・クロック (マクドナルド創業者)